



目指せ! ネットエスパー インターネット 新検索術

インターネットの中に潜む膨大な情報たち。そこから欲しいものを見つけ出して活用するには、もはや1検索サイトだけでは役に立たない。ネットの海を自在に泳ぎ、必要な情報をすぐ取り出し活用する、そんな「ネットエスパー」に変身すればインターネットの利用価値は無敵大になる。この連載で「ネットエスパー」に変身するスタートを切ろう!

二木 麻里 (Mari Futaki)
Illustr: Ebisu Yoshikazu

第1回 国際報道スーパーアンテナを身につける

アジア国際紛争、北米沖ジェット機墜落。なにかが起こるたび、たちまち世界のネットを怒涛のように席捲する時事ニュース。だが、日本語に訳されるのを待っているだけで、ネット上を飛びかうニュースの多様性と速度は、国内の新聞や雑誌とは比較にならないのだ。ニュースがニュースである時間は、初報道から6時間が勝負と思って

ほしい。豪雨のように降り注ぐ玉石混交の情報をかいくぐり、本物のニュースを素早く確実にゲットするにはどうすればいいのかわ。さまざまなネットツールを武器に、自分のアンテナを研ぎ澄ませておこう。

たとえば東ティモール。刻々と変化する現地情勢を追って、世界中のネット発信源がいっせいに報道体制を敷いた。1つずつ探

せばなんとかなる?まさか。パラパラではニュース自体の評価さえ難しい。それに各国の立場によって、ときにはまるで報道内容が違うのが国際ニュースの迫力でもある。ある程度まとまった情報を手に入れて、そこを出発点として調べていくのがいいだろう。まずは英語圏の超広域検索サイトに飛んでみよう。

1 ベースとなる情報を押さえる ——検索サイトのニュースオプション

ここでは「ノーザンライト」(米国)を使って検索しよう。比較的后発で、細かな工夫がある汎用検索サイトだ。

ただし、ここでいきなりシンプルサーチをかけたりにくい。欲しいのはニュースだけだ。表紙右端のオプション「Search News」を選び、キーワードはTimorと入力。ここは素直に検索していい。情報はすでにニュースだけに絞られているのだから。そう、キーワードの組み合わせだけが絞り込みではない。

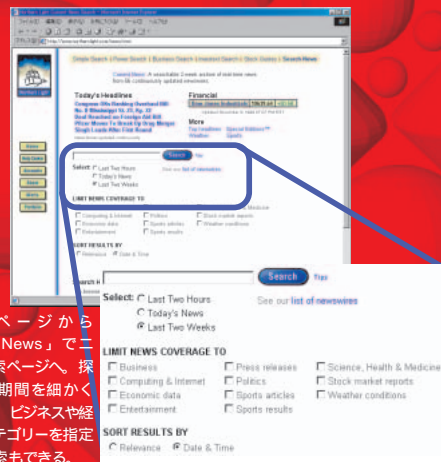
このとき、期間を限定できる機能が機動力を高める。今はとりあえずために「Last two weeks」を指定しよう。ニュースソースも指定できるが、ベース段階なので無指定でいく。このへんはちょっとした加減とい

っていい。落とすべき情報は落とすが、最初から落とすすぎではいけない。情報が入っている時間と空間のサイズを尋ねられていると考え、あとは必要に応じてその大きさを調整すればよい。

結果は163件。いい線だろう。もちろんすべてティモール関連の報道情報だが、このときリストアップされた個々の内容だけでなく、ニュースソースをざっと確認しておく。「どこが発信しているのか」はニュースの属性として決め手の1つだ。見ると新華社(Xinhua News Agency)、APとメジャーな発信源を含みつつ、ジャカルタなど現地発信も入って多彩な構成。まずは申し分ない。検索サイトによってはこのデータベースが偏っているものも多いので、こういふこ

ろで性質を見分けたい。

さらにこのページの左側セクションには「Custom Search Folders」があり、ティモール関連情報が項目別に出ている。米国人権、戦争犯罪、経済など、ちょっと見る



トップページから「Search News」でニュース検索ページへ。探す記事の期間を細かく指定でき、ビジネスや経済などカテゴリーを指定しての検索もできる。

と一般項目と思いがちだが、これはつまり、170件のヒットに対する分野別の絞り込みなのだ。もしティモールについて人権問題のレポートを書きたいなら、たとえば人権フォルダを見れば、さまざまな角度から切り込める、こういったツールも活用したい。こうして世界各地から発信された最新のニュースをセットで、ざっとふり分けられた形で入手できる。

このようなニュースサーチのオプションは、ほかにもいくつかの汎用検索サイトが持っている。最近大幅にリニューアルした「アルタビスタ」(米国)でも使えるようになった。きちんと絞り込んだスリムな報道情報が検索でき、イケる。

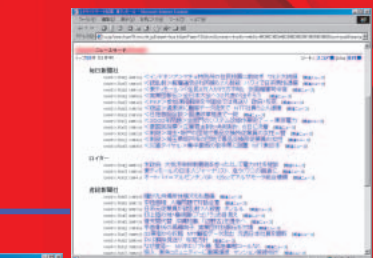
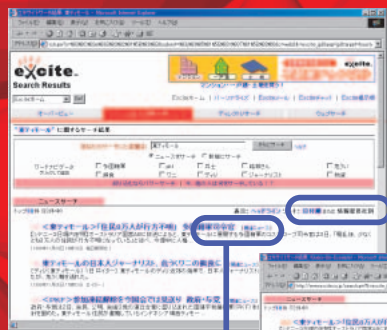
日本国内の検索サイトも併せて押さえるときは「エキサイト」に行こう。ニュースサーチ機能は他サイトにもあるが、エキサイトは新聞や雑誌、メールニュースなどデータベースの幅が広く、ニュースソースの表示も見やすい。トップページから「ニュース」のオプションを指定し、キーワードを「東ティモール」などで入力する。結果が出てくると「関連ニュース」が各リストの右に付いてい

- 「ノーザンライト」(NorthernLight)
 - www.northernlight.com
 - 「アルタビスタ」(AltaVista)
 - www.altavista.com
 - 「excite」
 - www.excite.co.jp

る。クリックすればそれぞれも読めて、興行きの情報を得られる。またニュースソース別の表示が行える。これはページの右端にある「情報提供社別」を指定すれば、ライター、産経、毎日など分かれて表示されてくる。「日付順」を指定すれば、最新ニュースから順にリストの上位にくる。細かな工夫がよい。



- Narrow Your Search with Custom Search Folders™**
- Your search returned 163 items which we have organized into the following Custom Search Folders:
- United Nations
 - Human rights
 - Clinton, William J.
 - Refugees
 - Oil & Petroleum
 - U.S. Congress
 - Peacekeeping
 - AP Online (newsline)
 - Economics
 - Asia Pulse (newsline)
 - Murdoch, Rupert
 - all others.
- US Patent 5,924,090



「エキサイト」のニュース検索結果は見出しから概要が掴みやすい。各見出し隣の「関連ニュース」から類似記事を探索できる(左)。「情報提供社別」でメディアごとにソートすれば国内報道と海外通信社報道の違いもわかる(上)。

2 さらに突っ込む——ニュース専用検索サイト

さらにニュースを追求するなら、ぜひニュース専用の検索サイトを利用したい。汎用サーチの1つのオプションと違い、サイト全体が「まるごとニュース」になっているのだ。たとえば「ニュースインデックス」(米国)がある。ここの「Search」でTimorと入れて検索すると、結果は138件。ニュースソースの構成を見ると「CNN」、「News Today」、「Boston Globe」などが並んでいて、やはりデータベース構成がよさそうだ。

このサイトの特におすすめしたい点は、メールを使ったカスタムニュース配信。「News Index Delivered」のページでアカウントを作ると、自分の好きなキーワードを5つまで指定できる。その言葉が本文に入っ

ている記事が毎日メールで無料配信される。らくちん! このとき、あまりに一般性の高いキーワードは避ける。うっかり「コンピュータ」などを指定してしまうと、毎日がメールの洪水に……。自分がよく知っている事柄、または求めている固有名詞や専門用語などから、やや慎重に入力しよう。

- 「ニュースインデックス」(NEWS Index)
 - www.newsindex.com



AP, AsiaNowなど大手メディアの報道が並び、各見出しの封筒マークをクリックすると、検索結果のニュースをメールで送信できる機能もある。

3

深く、濃く潜る——プロ用の情報資源を使いこなす

さて、さらに深くで濃い情報源に潜ろう。一流のニュースサイト、たとえば「ワシントンポスト」(米国)などを利用する。報道のプロによる、いわば玄人の情報が集められた「プロサイト」を使う方法だ。

ワシントンポストは自社発信のニュースだけでなく、さまざまな分野のニュースを探せる充実したサイト構成を組んでいる。表紙を訪れたら、左端セクションの「News Home Page」から「World」を選ぼう。使い方はいろいろあるが、今回は「Search the World」でインドネシアへ直接行ってしまおう。国名を入力する形式なので、「Indonesia」で検索。するとインドネシアに関するニュース類が、ドンとまとまって出てくる。これはかなり読み応えがある。

さらに強いのは、インドネシア現地発信の主要ニュースとワシントンポストやAPといった外部のニュースが両方検索されるところだ。1つの事件についてのさまざまな報道



検索結果がそのままニュースページになっているわかりやすい構成。

トップページの左にある「World」「Search the World」で検索画面へ。

の違いをランダムにはなく、できるだけ体系的に実感するにはこのアプローチがいい。また国内新聞、国際報道機関に加えて、関連調査機関、それもCIAの国務省ニュース、在外インドネシア大使館などがリストアップされてくる。インドネシアの地図も出

「ワシントンポスト」(The Washington Post)
www.washingtonpost.com

てくるので、絞りたい場合はスマトラ、ジャワなど該当箇所をクリックしてみよう。多角的な報道情報が満載されているのは、プロが使うニュースソースならではの威力だろう。

お助けツールここにあり!

ニュースアーカイブ

いざ「こと」が起きた時の機動力を持つために、ふだんからさりげなく情報体制を敷いておこう。周辺情報を強化したい時にも助けになる、そういうツールを3種類あげておきたい。

1つはニュースアーカイブ。報道情報は毎回、滝のように目の前を流れ落ちていってしまふけれど、これを整理した形でプールしているところがある。ひとまず事件が落ち着いたあと、後日のフォローアップにはこうしたアーカイブがよい。たとえばミシガン大学には有名な文献センターがある。事件のレジュームが付いた解説が添えられているので、後から事態を把握するには非常に助かるところだ。「asahi.com」のような日本国内の報道アーカイブと併せて使うと、見方も厚くなってよいのでおすすめしたい。

メールニュース

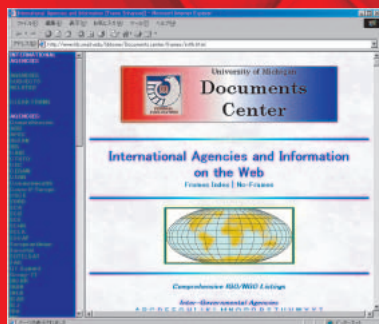
もう1つは各種のメールニュース。なかでも自分で分野や内容構成を指定できるものは使える。既製品のメールニュースを選ぶ

なら、発信源のクオリティを重視したい。はんばいニュースを10本とるより、優れたものを1本とるほうがはるかに頼れる。例を挙げると、有名な経済誌「ファイナンシャルタイムズ」(米国)。毎日メールでニュースを配信していて、分野指定もでき、ECや一般といった10種類ほどの選択肢がある。最近無料になった「日経goo」など日本国内のメールニュースと併せて、ビジネスマン

にはぜひおすすめしたい。

また、あらかじめセレクトされたニュースを毎日送ってくれるものもある。「インフォビート」(米国)などがそうだ。ここはなかなか便利で、経済、スポーツ、天気などの分野を指定できる。「ポイントキャスト」などのプッシュサービスも使いやすくはあるが、ときに重い。こうしたメールサービスは、なんととっても軽くて快適だ。

それから英語圏以外の情報源も押さえた



「ミシガン大学文献センター」(University of Michigan, Documents Center)
www.lib.umich.edu/lihome/Documents.center/intl.html
www.asahi.com



「ファイナンシャルタイムズ」(Financial Times)
www.ft.com
 「日経goo」
nikkei.goo.ne.jp
 「インフォビート」(InfoBeat)
www.infobeat.com
 「S/Z newslines」
www.sz-newslines.de

4

タイトに探す——世界の新聞リンク集

さらに媒体そのものを絞ってしまうやり方がある。たとえば「新聞だけ」を使うのだ。WWWには新聞専門のリンク集や検索サイトがある。特に現地の新聞名などがはっきりわかっている場合は、これがもっともダイレクトで速い。このルートでは「オールガワールズ・ニューズペーパーズ」(米国)など

が定番だ。国別でも新聞紙名でもOKだ。またサーチ機能だけでなく一覧リストがあるので、そのまま「Indonesia」をクリックしてもいい。インドネシアの新聞だけが20本以上リストアップされてくる。誰でも必ず探せるよさがある。

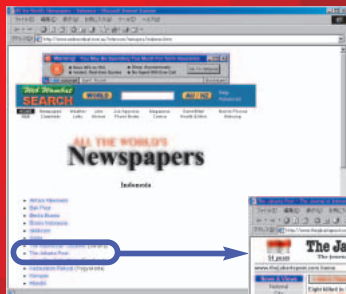
またこの利点は、たとえば紙名から英字

紙の見当がつかやすいことだ(インドネシア語が読めれば問題はないけど)。たとえば中華系の「ジャカルタポスト」を見ると、外交官の発表が出ていて「現地安全宣言」とある。完全にインドネシア国内に向けられた報道よりも、紙一重分だけ「外向け」の情報がこんな風に手にはいる。その場ですぐほかの新聞と比べられるし、あるいはビジネス新聞だけでも選べる。ごくシンプルで確実なやり方だ。「ワシントンポスト」などのプロサイトを使った総合的な報道情報の中から、いわば新聞というソースだけを切り抜いた

ような情報が得られる。なお同様の新聞関連サーチには「インターネットプレス」(米国)などがある。



国別、紙名別のほか、米国のみ州別もある。



国別カテゴリーの「Indonesia」「The Jakarta Post」へ。タイトルに「The」と付いているのは英字新聞である場合が多い。



「オールガワールズ・ニューズペーパーズ」
(All the World's Newspapers)

www.webwombat.com.au/intercom/newsprsr/

「インターネットプレス」
(Internet Press, All the news online)

www.gallery.uunet.be/internetpress/link4.o.htm



い。ここではドイツの有力紙「S/Z」を挙げておこう。やはり分野別にニュースダイジェストを毎日送ってくれる。次項に挙げるような翻訳サービスを使えば、非英語圏のニュースも無料で英語に翻訳できる。

翻訳ツール

最後に、手に入れた情報を翻訳するツールをご紹介しておきたい。手元で日本語にしたいことも多いし、欧州圏の主だった国際報道であれば、現地の言語からまず英語に訳せる。この種の多言語翻訳では「アルタビスタ」が優れている。表紙の右下にあ

る「Translation for Me」をクリックすると、翻訳ページに入れる。英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語の欧州語を相互翻訳できるのだが、ほかの多くの「翻訳」が辞書に近い実体なのに比べ、ここは訳したいページのURLや文章ペーストを入れると、かなり本格的に文章として訳して表示される。初めて使った時は正直、感動した。そして英語の日本語翻訳ツール。ご自分でソフトウェアを持っている方も多いと思うが、無料のものでは「バビロン」などがある。

こういった各種の翻訳ツールをくぐらせて、上にあげたドイツ語ニュースなどを日本語に持ってくることも不可能ではないのだ。



「アルタビスタ翻訳」(Alta Vista Translations)

babelfish.altavista.com

「バビロン」

www.babylon.com/jap/

5 情報手段をまとめる

——今月のポータルキット

“探しものなら汎用サーチ”は決して万能ではない。欲しい情報に入り込む入り口、つまりポータルは自分で作ることができる。あてがわれた入り口だけが手段ではないのだから。いろいろな性能を持つサイトを自分でキットのように組み合わせて作る、「ポータルキット」という発想をぜひおすすめしたい。今回ご紹介した各種の情報ツールを、あらためて国際報道ポータルキットとしてまとめてみよう。

国内ニュースを待つだけでは、あまりに惜しいインターネット。この七つ道具を手に、広大な架空世界をどんどん先まで歩いてほしい。「なぜ君は探せるの?」と聞かれたら、黙って微笑を返す。シックなネットエスパーを目指そう。

1 導入	英語圏の広域型サーチエンジンのニュースサーチ・オプション
2 専門	ニュース専門サーチエンジン
3 プロ	一流報道サイトが提供する総合情報ページ
4 ローカル	世界の新聞リンク集
5 アーカイブ	ニュースアーカイブ
6 メール	メールニュース
7 翻訳	多言語翻訳サービス



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp